

いばらきけんいたこしりつのぶかたしょうがっこう  
学校名 茨城県潮来市立延方小学校

校長名 方波見 守一

所在地 〒300-0736 茨城県潮来市小泉 2090 番地

TEL 0299-66-2076

FAX 0299-66-4692

E-mail nobukata-el@itako.ed.jp

URL <http://www.itako.ed.jp/~nobukata-el/>

## 1. 研究主題

「夢中」になって運動に取り組む児童の育成  
—できる、わかる、かかわる、生かす体育学習  
を通して—

## 2. 研究期間

平成23年度～平成25年度 3年間

## 3. 研究の目的

本校の児童は、体力テストの結果から全体的に  
県平均を上回っていた。しかし、児童アンケート  
の結果の分析から、体育に対する関心・意欲が高  
いが、運動の楽しさや喜びが味わえるよう自ら考  
えたり、工夫したりすることに苦手意識を持つ児  
童が多いということが分かった。さらに、自分の  
課題や能力に応じた練習方法や練習の場を選ぶこ  
とが出来なかったり、学習したことを新たな単元  
や日常生活に生かしたりすることに課題が見られ  
た。

また、本校教員の意識調査では、体育の授業が  
体力の向上に偏って、運動の楽しさや喜びを味わ  
えるよう自ら考え、工夫する力を高める手立てや  
児童が自ら課題を見つけ、運動の技能を身に付け  
るための手立てが不十分であるとの回答があった。

これらの実態と学校の教育目標、学習指導要領  
体育科の目標から、「できる・わかる・かかわる・  
生かす」体育学習を中心に学校教育全体を通して、  
運動の楽しさを十分に味わい、自ら工夫しながら  
夢中になって運動に取り組む児童の育成を図るこ  
とを研究の目的とした。

## 4. 研究の方法・実践内容

校内において、「授業研究部」「環境研究部」「調  
査研究部」を新たに設置し、研究を進めた。

1年次には、研究主題の設定、研究のねらいや  
研究の仮説の吟味、研究組織の編成、先進校の視  
察などを実施した。

2年次では、各学年の単元計画や指導計画、自  
作教材の作成、授業研究及び先進校の視察を実施  
した。

3年次には、各研究部での取組のねらいを再確  
認し、授業研究及び研究発表会を行った。また、  
3年間を通して投力向上を図る業間運動を行った。  
その主な研究内容は次の通りである。

### (1) 授業研究部の主な取り組み

#### ① 全学年で統一した体育学習のきまり

「体育学習のきまり」を作成し、全職員で共  
通理解を図り、各学級で指導することによって、  
全員が同じきまりの中で学習を進められるよう  
にした。決まりを意識して取り組むことで、教  
師からの指示が少なくなり、児童が素早く行動  
するようになった。活動時間が長くなり、楽し  
く体育学習に取り組むことができた。

#### ② 全学年で統一した体育学習の進め方

基本的な体育学習の進め方を全学年で統一  
した。基本的な進め方が統一されていることで、  
次の行動がわかるために、児童が主体的に取り  
組むようになった。また、教師が自信をもって  
指導できるようになり、指導内容の定着につな  
がった。結果として、児童は意欲的に体育学習  
に取り組むことができた。

#### ③ 体育学習における手立て

夢中になって運動に取り組む児童を育成する  
ために、体育学習の基本となる4つの手立てを  
考えた。これらの手立てを単元、あるいは1単  
位時間の中にバランスよく取り入れた体育学習  
を行うようにした。

##### ア できるための手立て

技能が向上するために、児童の実態に応じて  
教材・教具、学習形態や場、主運動につながる  
予備的な運動や前段階の運動、資料や発問を工  
夫したり、自分の動きを確認するための視聴覚  
教材を活用したりした。

##### イ わかるための手立て

児童が主体的に自分の課題を解決できるよう  
にするために、学習のねらいを明確にして、毎  
時間めあてに対する振り返りを行った。また、

運動のやり方やコツがわかるように資料を活用したり、よい動きがわかるように教師が師範したり、発問の工夫や話し合いの時間を確保したりした。

#### ウ かかわるための手立て

体育学習を通して肯定的な人間関係が構築できるようにするために、グループやペアの編成を意図的に行ったり、チーム作戦や役割分担を明確にするために話し合いの時間を設けたり、友達同士の教え合いや励まし合いを積極的に取り入れたりした。

#### エ 生かすための手立て

新たな単元や普段の生活で自分から進んで運動に取り組めるようにするために、個人の成果や課題を明確にする学習カードを活用したり、学習の成果を発表する場を設定したりした。

### (2) 環境研究部の主な取り組み

#### ① 「できる」ための自作教具の作成

体育学習を進めるうえで、既製の教具だけでは児童の実態に合わなかったり、数が足りず児童の活動量を十分に確保できなかったりする課題があったため、自作教具を作成した。環境研究部の職員が中心となり、それぞれの学年担任が意見を出し合うようにした。

#### ② 「わかる」ための掲示パネルの作成

児童が、器械運動領域の学習を行う際に、技の系統性、技を成功させるコツやポイントが視覚的にわかるように、掲示物を作成した。体育館の壁に立てかけて、いつでも確認できるようにした。

#### ③ 児童同士・児童と教師がかかわる休み時間

児童が進んで外遊びをしたり、体を動かして遊んだりすることができるように、休み時間の過ごし方を工夫し、環境を整備した。

#### ④ 体育学習の教材を「生かす」業間運動

研究開始前の体力テストの結果から、本校のボール投げの記録が他の種目に比べ劣っていた。そこで、投げる楽しさを味わいながら、投げる力を高めるために投運動の業間運動を行った。

### (3) 調査研究部の主な取り組み

#### ① 体育コーナーの作成

児童が目標をもって意欲的に運動に取り組んだり、頑張った成果を確認したりできるように、昇降口に「体育コーナー」を作成し、体力テストの結果や学年別の各種最高記録、校内持久走大会の結果や各学年歴代最高記録などを掲示し

た。

#### ② アンケートの実施

体育の研究を進めるにあたって、児童の運動に対する意識を把握するために、全校児童を対象に「体育学習についてのアンケート」を実施した。

### 5. 研究の成果

#### ○ 教材づくりや個に応じた指導を充実させ

「できる」体育学習を展開したことで、技能が身に付いたり、高まったりしたと実感している児童が増えた。

#### ○ 学習資料や発問を工夫した「わかる」体育学習を展開したことで、一人一人が自分なりのめあてをもって学習に取り組めるようになった。自分の課題を理解し、解決するために必要な方法を考えたり、運動の仕方を工夫したりして主体的に学習に取り組める児童が増えた。

#### ○ 互いに教え合い、認め合う活動を位置付けた「かかわる」体育学習を展開したことで、児童はうまくできた友達を賞賛し、失敗した友達を励ますことが自然にできるようになってきた。

#### ○ 既習内容を「生かす」体育学習を工夫したことで、運動の楽しさをより一層味わうことができ、日常生活でも進んで運動に取り組むようになった。

### 6. 研究の意義、発展性

児童の様子やアンケートを見ると、平成23年度から年を追うごとに確実によくなってきた。児童の姿に変容が現れ始めると、職員の体育学習に対する意識が変わり、その変容は他の教科への取り組みや生活態度にも波及してきた。

体育学習の指導内容を身に付けさせるための手立ては、どの教科にも共通することであり、言い換えれば、どの教科の研究でも学校全体で取り組むことで、目指すべき児童の姿に近づけることが検証できた。

今後の課題として、技能上位の児童の物足りなさを解消したり、児童同士の教え合いや励まし合いが形式的にならないようにしたりする手立てなどを研修することが必要である。今回の研究の成果を礎として継続実践に取り組むとともに、児童の体力の向上と運動習慣の日常化をさらに高まるように努めていきたい。